

愛媛県小児科医会

当会のご紹介&ご挨拶

令和5（2023）年秋
井上 哲志



本会は、「日本小児科学会愛媛地方会（昭和 37 年発足）」を母体として、
昭和 59 年 1 月に設立されました。

本会の究極の目的は、愛媛県下の子どもたちの心身の成長を医療の面からサポートすることにあります。
私たちは日々、子どもと家族の声を直に聴きながら医療を提供しています。

2020 年初頭に始まった新型コロナウイルスのパンデミックは、マスク着用を始め「三蜜」回避などの行動制限を通して、子どもたちの生活をも一変させてしまいました。

悲しいことに昨年度は小中高生の自殺者数が過去最悪を記録し、不登校の数も増え続けています。
ようやく今年の 5 月になって感染症法上の位置づけが 5 類に変更されて、子どもたちも日常を取り戻しつつある一方で、様々な感染症が一気に流行するなど心身への影響が色濃く残っています。

他にも、発達障がい、医療的ケア、移行期医療などの分野のニーズも高まっています。児童虐待の予防や対応、小児救急体制の維持も重要なテーマです。

このような課題は医療のみで解決することは難しく、保健・福祉・教育に携わる行政や民間の方々と連携し、子どもたちの育成に必要な環境を地道に整えていく必要があります。

子どもたちと家族を中心に、できればチームの一員に迎えて、「未来を担う世代」を地域全体で育てることができるよう、慢性疾病や障がいの有無にかかわらず全ての子どもたちが「愛媛に生まれてきて良かった」と思えるよう、皆さまのご協力をお願いいたします。

～ 子どもたちの明るい未来を願って ～

IT や AI の進歩は目覚ましく、無限の可能性を子どもたちに提供しています。一方で、「ゲーム障害」など過度な使用が「心と脳の発達」に及ぼすマイナスの影響には注意が必要です。

様々な理由で日常生活に制約がある子どもたちも、メタバースと言われるもう一つの世界を行き来して成長の場を広げていくことができるかもしれません。

そのような中だからこそ、直に友だちと交流し、五感で自然に触れることが大切です。

ひとりひとりの子どもが、その子らしく、希望と喜びをもって育っていけるよう、

みんなで子どもと家庭を温かく見守り、応援していきましょう。